

平成 29 年 12 月

## 第 27 回日本医療薬学会年会実施報告書

第 27 回日本医療薬学会年会

年会長 大森 栄

信州大学医学部附属病院 教授・薬剤部長

事業名：第 27 回日本医療薬学会年会

主催者：一般社団法人日本医療薬学会

年会長：大森 栄（信州大学医学部附属病院 教授・薬剤部長）

会 頭：佐々木 均（長崎大学病院 教授・薬剤部長）

後 援：一般社団法人日本病院薬剤師会、公益社団法人日本薬剤師会  
長野県病院薬剤師会、一般社団法人千葉県病院薬剤師会  
一般社団法人長野県薬剤師会、一般社団法人千葉県薬剤師会  
日本薬科機器協会

実施日程：平成 29 年 11 月 3 日（金・祝）～5 日（日）

実施場所：幕張メッセ 〒261-8550 千葉市美浜区中瀬 2-1  
アパホテル&リゾート東京ベイ幕張 〒261-0021 千葉市美浜区ひび野 2-3  
ホテルニューオータニ幕張 〒261-0021 千葉市美浜区ひび野 2-120-3

会場数 口演会場 : 14 会場  
ワークショップ会場 : 1 会場（日本薬科機器協会ワークショップ）  
ポスター会場 : 1 会場  
展示会場 : 1 会場

## 年会の趣旨

第 27 回日本医療薬学会年会を、平成 29 年 11 月 3 日（金・祝）～5 日（日）の 3 日間、幕張メッセ、アパホテル&リゾート東京ベイ幕張、ホテルニューオータニ幕張（千葉市美浜区）において開催した。

医療の進歩、チーム医療の推進、薬剤師が求められる職能と役割の変化が著しくなっている一方で、薬学教育における医療薬学分野の充実の必要性が求められている。また、薬学教育は 6 年制となり、充実した臨床教育・実習カリキュラムが作成され、その教育を受けた薬剤師が誕生してきて現場に出て活躍し始めた。社会的にも、薬剤師は医薬品の安全管理、適正使用の推進サポーターから薬物療法時における薬の専門職として中心的役割と責任を求められる様に変わってきている。このような環境の変化の中、日本医療薬学会は、医薬品創薬から育薬までを含む医療薬学という学問の進歩及び普及を図ることを目的としていることから、本学会が薬に関して担わなければならない社会的役割は、より大きくかつ重いものとなってきた。チーム医療という医療形態の中で、我々薬剤師が必要とされている薬物療法に対する専門性、病診-薬連携による地域医療、在宅医療の充実への貢献等は、将来の医療形態を考える上でも極めて大切なポイントとなっている。その行為を遂行しさらに質の向上を目指す上で、医療薬学は基盤となって行くべき唯一の学問分野である。そこで、第 27 回年会のテーマを「医療薬学が切り拓く薬剤師力の深化・醸成 ～医療人としてより輝くために～」とした。

本年会では、医療薬学という薬剤師による学問の更なる深化・醸成を目指すため、現会頭に“医療薬学の発展に向けて”という題目で講演をお願いした。それを皮切りとして、倫理、最先端医療と学術的な面を意識したものと、医療安全、近未来医療そして現在の医療課題の 1 つであるポリファーマシーといった臨床現場を意識した特別講演とした。特に倫理に関しては、薬剤師が医療従事者、臨床研究者として前面で活躍することが当然の時代になって、学ぶことが必要となってきたという意識で福嶋義光信州大学名誉教授に特別講演をお願いした。また、本学会は 2014 年よりオープンアクセス英文誌を発行しており、国際的にも医療薬学の学問的基盤の強化と発展を目指していることから、本年会では、これまでの国際シンポジウムを時間として 2 倍に拡大し 1 会場ではあるが半日間公用語を英語としてシンポジウムを企画し、日/中/韓/シンガポールからの招待者による講演と、第 2 部では日本人によるプレゼンテーションを試みた。

大学生時代から 28 年間を過ごした第 2 の故郷である千葉市において、医療薬学の祭典ともいえる医療薬学会を務めることとなり、気負いもあったが、これからの医療薬学の発展を期待し、参加者が学問的に満足して帰っていただけるように山折組織委員長と共にシンポジウムの選択とプログラム編成等を行った。よりゆったりと会場で過ごしていただける様に会場の設定については前年の年会の情報を活用し配置した。加えて、会期も休日/祝日の 3 日間という事もあり、託児室の整備などについても配慮した。

会費等の設定：

参加費	正会員	非会員	学生	懇親会	一般	学生
事前参加登録	9,000円	13,000円	3,000円	事前登録	8,000円	4,000円
当日参加登録	13,000円	16,000円	4,000円	当日登録	10,000円	5,000円

プログラム集：2,000円（当日）、2,500円（事前：郵送費含む）

市民公開講座：無料

事業内容：

1、メインテーマ『医療薬学が切り拓く薬剤師力の深化・醸成 ～医療人としてより輝くために～』

- |                                       |          |
|---------------------------------------|----------|
| 2、会頭講演                                | 1 題      |
| 3、特別講演                                | 6 題      |
| 4、教育講演                                | 1 題      |
| 5、日本医療薬学会 学術貢献賞受賞講演                   | 該当者なし    |
| 6、日本医療薬学会 奨励賞受賞講演                     | 1 題      |
| 7、日本医療薬学会 Postdoctoral Award 受賞講演     | 6 題      |
| 8、特別企画シンポジウム                          | 3 セッション  |
| 9、薬学教育特別セッション                         | 1 セッション  |
| 10、International Symposium (国際シンポジウム) | 1 セッション  |
| 11、シンポジウム (公募)                        | 54 セッション |
| 12、市民公開講座                             | 1 セッション  |
| 13、一般演題                               | 1,694 題  |
| 1) 口頭                                 | 315 題    |
| (うち優秀演題候補 50 題)                       |          |
| 2) ポスター                               | 1,379 題  |
| 14、International Poster               | 19 題     |
| 15、平成 29 年度日本病院薬剤師会病院薬局協議会／学術フォーラム    |          |
| 16、共催セミナー                             | 31 セッション |
| 17、日本薬科機器協会ワークショップ                    |          |

参加者数：

	参加登録				懇親会	
	正会員	非会員	学生	海外	一般	学生
事前登録	5,534	1,647	123	-	293	0
当日登録	767	995	115	48	52	4
計	9,229 名				349 名	

プログラム集：2,000円（当日）、2,500円（事前：郵送費含む）

市民公開講座：無料

運営組織:

年会長	大森 栄	信州大学医学部附属病院
組織委員長	山折 大	信州大学医学部附属病院
副組織委員長	青山 隆夫	東京理科大
	石井 伊都子	千葉大学医学部附属病院
	望月 真弓	慶應義塾大学／慶應義塾大学病院

〈組織委員〉

青山 芳文	株式会社日立製作所日立総合病院	高橋 弘充	東京医科歯科大学医学部附属病院
明石 貴雄	東京医科大学病院	中島 克佳	東京大学医学部附属病院
赤瀬 朋秀	日本経済大学院	仲村 スイ子	新潟信愛病院
厚田 幸一郎	北里大学病院	狭間 研至	ファルメディコ株式会社
伊藤 清美	武蔵野大学	濱 敏弘	公益財団法人がん研究会有明病院
大谷 壽一	慶應義塾大学	林 昌洋	国家公務員共済組合連合会虎の門病院
折井 孝男	社会医療法人河北医療財団河北総合病院	保科 滋明	社会医療法人財団慈泉会相澤病院
北澤 貴樹	医療法人小宮山医院	本間 真人	筑波大学附属病院
吉光寺 敏泰	MeijiSeikaファルマ株式会社	真坂 互	東洋大学医療センター佐倉病院
木村 利美	東京女子医科大学病院	百瀬 泰行	国際医療福祉大学／国際医療福祉大学病院／塩谷病院
佐々木 忠徳	昭和大学病院	山浦 克典	慶應義塾大学
佐藤 透	恩賜財団済生会横浜市南部病院	山田 安彦	東京薬科大学
鈴木 貴明	千葉大学医学部附属病院	山本 康次郎	群馬大学医学部附属病院
鈴木 正彦	山梨大学医学部附属病院	山本 信夫	株式会社保生堂薬局
須藤 俊明	自治医科大学附属病院	脇山 尚樹	第一三共プロファーマ株式会社

〈実行委員〉

赤木 祐貴	独立行政法人国立病院機構横浜医療センター	高柳 理早	東京薬科大学
今村 知世	慶應義塾大学	永田 将司	東京医科歯科大学医学部附属病院
大谷 道輝	杏雲堂病院	中村 貴子	千葉大学医学部附属病院
大野 能之	東京大学医学部附属病院	中村 智徳	慶應義塾大学
大林 恭子	高崎健康福祉大学	中村 裕義	国際医療福祉大学三田病院
神林 泰行	筑波大学附属病院	花田 和彦	明治薬科大学
倉田 なおみ	昭和大学	花輪 剛久	東京理科大学
濃沼 政美	帝京平成大学	真野 泰成	東京理科大学
下枝 貞彦	東京薬科大学	峯村 純子	昭和大学横浜市北部病院
杉浦 宗敏	東京薬科大学	山口 雅也	慶應義塾大学病院
高田 龍平	東京大学医学部附属病院	山本 武人	東京大学
高橋 賢成	横浜市民病院		

## 事業成果

第 27 回日本医療薬学会年會を、平成 29 年 11 月 3 日（金・祝）～5 日（日）の 3 日間、幕張メッセ、アパホテル&リゾート東京ベイ幕張、ホテルニューオータニ幕張（千葉市美浜区）において開催した。参加者は国内外から招待者を含め 9,360 名と、ここ何年か 9,000 名を超えての参加者となった。

本年會のメインテーマは「医療薬学が切り拓く薬剤師力の深化・醸成 ～医療人としてより輝くために～」とした。組織委員長は当薬剤部の山折准教授が務め、青山隆夫、石井伊都子、望月眞弓の 3 名の副組織委員長と共に會の運営にあたった。本年會では、医療薬学分野の著しい変動が近年認められることから、本會のこれからの医療薬学という薬剤師による学問の更なる深化・醸成を目指すため、佐々木均會頭に“医療薬学の発展に向けて”という題目で會頭講演をお願いした。

特別講演はメインテーマに沿った内容と現在の実務課題の解決へと導くために示唆を与えていただけの内容で 6 題構成した。信州大学医学部の福嶋義光先生には、これから益々薬剤師が医療従事者、臨床研究者として前面で活躍することが当然の状況となってくることから、あらためて倫理について考えていただきたく「医療倫理と研究倫理」と題して臨床現場で考えなければならない医療倫理と臨床研究について丁寧に講演していただいた。慶應義塾大学医学部生理学教室の岡野栄之先生には「iPS 細胞技術の神経系の再生医療および疾患研究への応用」の演題で、先端医療に関する話題として、ALS、アルツハイマー病、パーキンソン病を中心に病態解析と創薬研究についてご講演いただいた。がんの個別化医療・治療に向けての特別講演として、北海道がんセンターの西原広史先生に、「網羅的がん遺伝子検査による、がんプレジジョンメディシンの実践」の演題で網羅的がん遺伝子解析システムの現状と解析結果をもとにしての、がんプレジジョンメディシンの現状と問題点について、北海道大学の臨床例を加えて報告いただいた。教育講演では、慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科の矢作 尚久先生に「次世代医療 ICT 基盤技術の臨床応用- 次世代の社会基盤技術としての展開 -」と題しご講演いただいた。その他、厚生労働省医政局の野坂佳伸先生による「特定機能病院における医療安全管理体制の見直しについて」、千葉大学医学部附属病院病院長の山本修一先生による「未来志向の大学病院運営」、愛知医科大学医学部地域医療教育学寄附講座・医学教育センターの宮田靖志先生による「患者中心のポリファーマシー対策～意思決定の共有と価値観に基づく医療の実践～」といった内容で各先生方にご講演いただいた。

特別企画シンポジウムは、質の高い薬剤師の育成を目指し、これからの薬剤師指導・教育とその人材教育のための組織作りについて議論していただく「次世代を担う臨床薬剤師の育成と組織作り」（オーガナイザー：橋田亨、吉村知哲）、指導者育成を目指した「病院薬剤師がマネジメント能力とリーダーシップを発揮するために」（オーガナイザー：石井伊都子、寺田智祐）、人工知能が変えていくであろう薬剤師の業務、臨床現場とどう向き合っていくべきかを「人工知能（AI）が変える医療

と創薬の未来」(オーガナイザー：下堂園権洋、山折大)と3題企画して討論していただく機会を設けた。

公募シンポジウムは昨年同様80件を超える応募企画が寄せられ、それらの中から54題を採択した。特に益々進化した多様化していく薬剤師業務に関する企画が多かった。それら各シンポジウムでは多くの有意義な講演と討論が展開され、薬剤師のこれまでの成果を基盤として、これからさらに求められるであろう薬物療法の適性化に対するあり方、医療人としての取り組み方などについて議論された。年会で討論したことがらが職場に戻り業務向上、学術的レベルアップに繋がれば幸いである。本年の国際シンポジウムは、日本、中国、韓国、シンガポールから演者を招待しての従来のスタイルのシンポジウムと、日本人のみによる英語による講演からなるセッションの2部構成での企画とした。テーマは共に「Expanding the pharmacist's roles in both the finance and delivery of health care services」と共通として、時間も半日とこれまでの約2倍を確保した。初めての試みであったが、共に約100名程の参加があり、武田泰生、折井孝男両オーガナイザーのそつのない進行もあり、期待した以上の盛会なものとなった。一般演題は口頭発表が315題、ポスター発表が1,379題、International posterが19題と計1,713題もの発表がなされた。優秀演題に関して口演の各部門から10題を表彰させていただいた。市民公開講座は国際武道大学体育学部の山本利春先生による「健康作りのためのストレッチングの効用～疲れや痛みを予防・解消するために～」と題するものであり、実技も加えての楽しい公開講座となった。

各会場共いずれも盛況で会場の入場者を考慮した中継会場を3会場用意したこともあってか、多くの会場では席を確保出来ていたが、幾つかの会場では席が足りずご不便をおかけしたことも否めず、その点が反省点として上げられる。その他、Wi-Fi環境でご迷惑をおかけした部分、託児所の問題などが挙げられるが、これらについては年会の在り方委員会にての議論を期待し来年以降のより速やかな会の運営に繋げていただければ幸いである。

第 27 回日本医療薬学会年会 優秀演題一覧

演題番号	筆頭演者名	筆頭演者所属	演題名
3-8-○21*-14	赤嶺 由美子	秋田大学医学部附属病院 薬剤部	ACMIA, CLIA, ECLIA, LTIA 法によるタクロリムス血中濃度測定値への CYP3A5 遺伝子多型の影響
3-8-○22*-18	今井 俊吾	北海道大学病院 薬剤部	データマイニング手法を用いた Ganciclovir 誘発性好中球減少症の要因分析
3-5-○1*-02	上島 智	立命館大学 薬学部 医療薬剤学研究室	心房細動患者におけるアピキサバンの母集団薬物動態/薬力学的解析
3-8-○19*-03	神林 祐子	京都府立医科大学附属病院 薬剤部	ペグフィルグラステム投与適格症例の予測—RDI に着目した順序ロジスティック回帰分析を用いた検討—
3-8-○20*-09	清水 久範	昭和大学病院 薬局	わが国における高度催吐性化学療法に対する標準的な 3 剤併用制吐療法の医薬経済分析 - TRIPLE 試験の費用調査
3-6-○7*-05	下川 頌子	金沢大学附属病院 薬剤部	リトドリン塩酸塩による切迫早産治療後の新生児低血糖症発現率とリスク因子の解明
3-5-○4*-16	城山 亮輔	東京大学医学部附属病院 薬剤部	フェンタニル速放性製剤使用患者における持続痛の有無を判別できるレスキュー使用回数のカットオフ値の推定
3-5-○3*-14	奈良 克彦	東京大学医学部附属病院 薬剤部	SP 療法に伴う血液毒性は生存期間および病理学的組織奏効率の有用な予測因子である
3-6-○8*-09	平井 利幸	株式会社日立製作所 ひたちなか総合病院	IT を基盤とした地域保険薬局との連携プロトコールの成果
3-5-○2*-08	山本 武人	東京大学医学部附属病院 薬 剤部	CYP2C19 遺伝子多型がエチゾラムとイトラコナゾールの薬物間相互作用に及ぼす影響の検証

(五十音順)

優秀演題選考委員長：青山 隆夫（東京理科大学）

二次審査委員（30名）：有吉 範高（岡山大学大学院）、家入 一郎（九州大学大学院）、

石川 和宏（北陸大学）、石澤 啓介（徳島大学病院）、出石 啓治（いずし薬局）、桂 敏也（立命館大学）、

萱野 勇一郎（社会福祉法人恩賜財団 大阪府済生会中津病院）、河原 昌美（金沢市立病院）、

木村 和哲（名古屋市立大学病院）、木村 健（兵庫医科大学病院）、後藤 伸之（福井大学医学部附属病院）、

崔 吉道（金沢大学附属病院）、島田 美樹（鳥取大学医学部附属病院）、白石 正（山形大学医学部附属病院）、

菅原 満（北海道大学大学院）、千堂 年昭（岡山大学病院）、田崎 嘉一（旭川医科大学病院）、

田中 亮裕（愛媛大学医学部附属病院）、直良 浩司（島根大学医学部附属病院）、

仲佐 啓詳（東千葉メディカルセンター）、中村 敏明（大阪薬科大学）、平野 剛（北海道医療大学）、

本間 真人（筑波大学附属病院）、前田 頼伸（独立行政法人労働者健康安全機構 中国労災病院）、

増田 智先（九州大学病院）、松尾 宏一（福岡大学筑紫病院）、松尾 裕彰（広島大学病院）、

松本 宜明（日本大学）、村木 優一（京都薬科大学）、矢野 育子（神戸大学医学部附属病院）